

編集後記 うらを見せおもてを見せて散るもみじ

なんだか急に寒くなりましたね。

これから「もみじ」の色も、一気に色づくかもしれません。

夜の冷え込みが激しくて、日中の寒暖の差が大きければ大きいほどその紅は、美しく、鮮やかさを増すそうです。

来月、義父と伊豆の紅葉と富士を見に行く予定なので楽しみです。

「もみじ」といえば、良寛和尚の有名な辞世の句を思い出します。

「**うらを見せ おもてを見せて 散るもみじ**」

自分の良いところも悪いところも、隠さずにすっかり見せてきたのだから恥ずべきこと、思い残すことはないという清々しさ、尊さを感じさせる句です。

しかし、悪いところを見せたくないというのも人間の性（さが）。

それが組織ぐるみの「偽装、隠蔽、改ざん、捏造」という違法行為となれば、無責任な話です。

無資格の従業員が行った完成検査を有資格者が手掛けたように偽装していた日産自動車の事件に続いて、品質データを長期間にわたり改ざんしていたことを神戸製鋼所が発表しました。

人の生活において最も大切な「安全・安心」に関わる問題なので騒がれて当然です。

特定の個人が秘密裏にたまたまやっていたというより、上司から部下、先輩から後輩と長期にわたって受け継がれてきたことのようにです。10月10日の日経の記事では、ミドル以上の主力従業員の罪の意識の薄さが、不適切行為の背景にあると厳しく指摘していました。

コンプライアンス重視は、今の社会の流れ。

そして若い従業員は、自分の上司や先輩を見て、その職場における自分の将来を重ねます。

企業人における最大の環境は上司ですから。

就職状況が良好な昨今においては、場合によっては早々と見限って転職する時代です。

簡単に退職させて人が足りなくなってあわてて求人しても、なかなか期待に添えるような求職者は来ません。

優秀な人材はどうしても少しでも処遇の良い大企業に流れてしまいます。(+_+)

ここ2年で全く異なってしまっている求人の状況を、現場の上司・先輩は改めて認識いただき、せっかく採用・育成した従業員の気持ちが離れないよう、できれば夢を与えるようなお手本となってほしいと思います。

その為に「報連相」を大切に、チームのベクトルを揃えることを意識してはいかがでしょう。

例えば報連相のこんなことを意識して、仕事の目的や やりがいが共有できるよう指導して下さい。

「正直に報告している」、「悪い情報ほど早く連絡している」

「結果や状況報告だけに止まらず、『自分の意見』もしっかり述べているし、『提案』を添えている」

「『相談』という形式で、『意見具申』・『情報提供』とか『上司の方針や真意』の確認もしている」等々。

よい人間関係は よい報連相の上に成り立ちます。よい報連相は よい人間関係の上に成り立ちます。

私事で恐縮ですが、この夏に義母が亡くなりました。m(_)_m

義母は何でも義父に相談する人で、僕から見ても何とも仲睦まじい夫婦でした。

約25年前の、僕の結婚式のこと。

僕は締めの挨拶で『互いの両親を良きお手本にします』と恥ずかしくもスピーチしました。(^^)

とりあえず、今も結婚を続けられているのは、そんな身近なお手本があったからかもしれません。

来月の伊豆では紅葉と美しい富士を義父に見せてあげたいと思っています。

その亡くなった義母の名前は、「富士江」さんでした。

アヴニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail avenir4you@gmail.com



伊豆修善寺
竹林の小径
平成28年11月

